桜花学園大学・名古屋短期大学

図書館だより

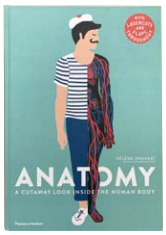
NO.70
2020.12

お薦めの本

桜花学園大学保育学部国際教養こども学科が設置され３年が経ちました！
今号は、国際教養こども学科の教員のお薦めの洋書の絵本の紹介です。これらの絵本は、図書館の企画コーナーで展示しています。実際に手にとって読んでみませんか。

『ANATOMY』

HELENE DRUVERT 著〈Thames Hudson〉
寺田 恭子教授



ニュージーランド、ハミルトンの中心街を一本奥に入った狭い裏通りの小さな本屋さんで見つけた大人向け仕掛け絵本。

精巧な作りに引き込まれます。マニアックすぎるこの絵本。子どもには触らせたくないなぁ。

『Curious George』

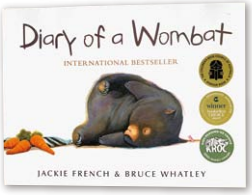
H.A.Rey 著〈Houghton Mifflin〉
木村 達志教授

NHKのEテレでも放映している「おさるのジョージ」、英語名 Curious George の絵本をお勧めします。

初版発行は1941年で、海外でも人気シリーズです。総語数が1,000語程度であり、学生の皆さんが英語学習をするのにちょうど良い分量と思います。本学の図書館に蔵書がありますので、興味がある方は図書館へ行き手に取ってみて下さい。

『Diary of a Wombat』

Jackie French 著／Bruce Whatley 絵
〈Angus & Robertson〉
酒井 久美子助手



愛らしい表情とずんぐりとしたボディ、内股の短い脚でちょこちょこと歩く姿がとてもチャーミングなウォンバットはオーストラリアの代表的な動物の１つ。好きなことは寝ることと食べることと、それから…。

毎日を穏やかに過ごすウォンバットの姿に心癒される一冊です。

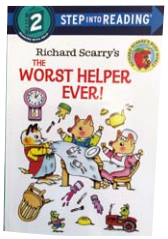
『Peek-a-boo』

Miyoko Matsutani 著〈R.I.C publication〉
田端 智美准教授

松谷みよ子の赤ちゃん絵本シリーズですが、様々な言語に訳されています。国際教養こども学科のNZ研修の際には、英語版を持参しました。どこの国で読んでも喜ばれます。中国・タイ・スリランカでも読みました。日本語、英語を交えて読んでみてはいかがでしょうか。

『THE WORST HELPER EVER』

Richard Scarry 著〈RANDOM HOUSE〉
石山 英明教授



私は、リチャード・スキャリー（Richard Scarry）の世界観が大好きです。中でも、登場人物が「失敗」するシーンに魅力を感じます。ここで紹介するのは‘THE WORST HELPER EVER’です。忙しいFarmer Pigが友人のCharlie Catに仕事の手伝いを頼みますが、いったいどうなってしまうのでしょうか？

『TWO LITTLE BUGS』

Mark and Rowan Sommerset 著〈Dreamboat Books〉
原田 明美教授

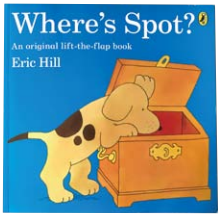
「小さな2匹の幼虫」は、ニュージーランドに行ったとき、町の本屋さんで買いました。ページをめくると、穴が空ていてそれがだんだん大きくなっていくのがおもしろくて買いました。

2匹のちいさな幼虫が葉の表と裏に居て、表の赤い幼虫が「お日様が当たって明るくて暖かいよ！表においで」と言いますが、青い幼虫は表に出ることをためらって中々出てきません。食いしん坊の赤い幼虫は葉をどんどん食べていきます。

さて、2匹の幼虫はどうなったでしょう。ページをめくるのがワクワクする絵本です。

『Where's Spot？』

Eric Hill 著〈PUFFIN〉
布施 佐代子教授



Spotは、ぶち模様のかわいい元気な子犬です。どこかへ遊びに行って、夕ご飯の時間になっても帰ってきません。Spotはどこにいるのかな？…と子どもと一緒に探す楽しい絵本です。仕掛け絵本になっていて、それをあけてみるのもドキドキワクワクしますよ。

春季休業のための長期貸出

【貸出数】図書…10冊／雑誌バックナンバー…3冊／CD・カセット…3点

貸出期間

- 桜花学園大学1～3年・大学院1年、名古屋短期大学1年・専攻科1年
  2021年1月18日（月）～2021年4月13日（火）
- 桜花学園大学4年、大学院2年、名古屋短期大学2年・専攻科2年
  2021年1月18日（月）～2021年3月19日（金）

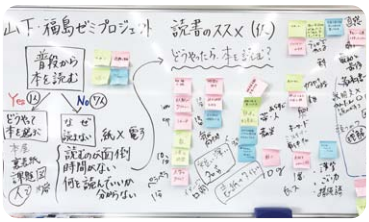
Library News

本に出会おう図書館選書！ ～現代教養学科“読書のススメ”プロジェクト～

名古屋短期大学 現代教養学科　山下 玲香助教　福島 裕人准教授

1 プロジェクトの背景

意見交換


意見を書き出した記録

現代教養学科1年生は社会人基礎力の育成のためにゼミごとに特色ある「ゼミプロジェクト」を行っています。今年度の山下福島ゼミでは「読書のススメ」ということで、読書に関連するプロジェクトを担当することになりました。プロジェクトを始める前にゼミ生に「普段読書をしますか？」と質問をしたところ、1名以外は全員「いいえ」という回答。「本を読むことは良いことだ」と分かっていても読まないのはどうしてなのか、自分たちなりに考えてみることにしました。「なぜ本を読まないのか」についてキーワードを書き出してみると、読書に対して堅苦しいイメージがある、読書の時間がない、選書の仕方がわからないといった理由が次々と浮かび上がってきました。ではどんな本なら読みたいと思うのか？ページが少ない、表紙が面白い、タイトルがカタカナ等々…これなら読めそうだ！というキーワードが出てきたところで、2つの班に分かれ、異なる手順で図書館にて選書をしてみました。さて、彼女たちは一体どんな本にたどり着いたのでしょうか。

2 プロジェクトの流れ

❶「読書」について、①なぜ読まないか、②どうしたら本を読むか、③どんな本なら読むか、について意見交換
❷本を自由に探した後でPCで検索をするA班と、PCでキーワードなどから検索をして、後から本を探すB班
❸図書館にない本は購入希望の手続き
❹選書本読書（夏休みの課題）
❺購入希望した本のPOP作成（10月）
❻発表に向けてレジメ&スライド作成（10～11月）

検索の様子

選書した本の紹介

図書館選書の振り返り

学生のおススメの本と図書館選書の感想

おススメの本
『ディズニー 夢を叶える神様が教えてくれたこと』

鎌田 洋 著〈SBクリエイティブ〉

名古屋短期大学 現代教養学科1年 藤野 里佳子

同じシリーズの本を持っていて、この本はまだ読んだことがなかったので選びました。この本には3つのお話があって、特に3つ目のお話が印象に残りました。ディズニーのキャストは夜にパーク内を掃除します。目に見えるところはもちろんですが、ゴミ箱の中やトイレの便座の中の隅々のところまで、ゲストが見ないようなところまでピカピカにするそうです。私だったら見えないところはある程度綺麗にして終わってしまうでしょう。掃除をすると、自分の中も浄化されると書いてありました。掃除に集中することで嫌なことがあっても浄化されて良い気持ちになれるからだそうです。確かに嫌なことがあって落ち込んでいたら余計に気分が下がるし、何かに集中したら嫌なことも忘れるかもしれないと思いました。この本を読んで、掃除はただ物を綺麗にするだけではなく、人の心や気持ちも綺麗にしてくれるのだと分かりました。そう考えると、掃除も楽しいものに変わっていくのではないでしょうか。

図書館選書の感想（A班）

自分の読みたい本が思いついても、図書館のどこにあるのか探しづらかったですが、自分の興味のある本を見つけて探すことが楽しく、また関連する本をたくさん見つけることができました。自分は前もって興味のある本を探しておいてからお店に行って本を買うやり方が向いていると思いました。

おススメの本
『忍びの国』

和田 竜 著〈新潮社〉

名古屋短期大学 現代教養学科1年 浅井 小姫

映画を見たあとに原作が気になったので、この本を選びました。主人公は、人を人とも思わない人でなしの無門。最初は金のために人を簡単に殺してしまう無門に対して共感を持てませんでしたが、ライバルの死をきっかけに無門が人の心を取り戻し改心しようとする矢先、妻のお国が殺されてしまい、ずっと涙を見せなかった無門が泣くシーンは、今までとのギャップですごく感動しました。最初は歴史小説らしく難しく読みにくいと感じましたが、後半にどんどん盛り上がってくる作品なのでスラスラ読むことができます。口調も歴史物という感じではなく現代風にフラットです。映画化されているので映画を観ると映画と小説で少しずつ話が違っていて、そこが楽しめるポイントです。

図書館選書の感想（B班）

検索エンジンを使うと、自分の探したい本が図書館にあるかどうかがわかるので便利ですが、自分の知っている本や読んだことのある本ばかり検索してしまい、新しい本の発見がないなと思いました。新しい本の発見をしたい方は、A班のように書店や図書館にフラっと立ち寄って気になる本を手にするのがお勧めです。私自身はAの方法が向いていると思います。同じ本を何度も何度も繰り返し読むのが好きで、新しい本に巡り合うことがあまりないので、新しい本にチャレンジするためにも何も考えずに書店や図書館に行って気になるものを手にしたいです。

購入希望

読みたい本がない場合は、購入の依頼を図書館ですることができます。実際に購入してもらった本のPOPも工夫して作成しましたので、ぜひ図書館にお越しください。現教生ならではのラインナップですよ。